

とよなかの市民活動 共同テスク

2015年12月発行 第17号

とよなかの市民活動・共同テスク実行委員会

(社福) 豊中市社会福祉協議会

(一財) とよなか男女共同参画推進財団

(公財) 豊中市スポーツ振興事業団

(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ 21

とよなか市民公益活動協議体 らっぴ

(公財) とよなか国際交流協会 (第17号担当)

TEL: 06-6843-4343

FAX: 06-6843-4375

今回は、若者についての活動をご紹介します。



(一財)とよなか男女共同参画推進財団

講座「自分の未来デザインしよう ～仕事、結婚、家庭、子育てのこと～」を実施

11月1日、15日(日)に豊中市主催2回連続講座「自分の未来デザインしよう」を実施しました。高校生、大学生から30歳代の男女を中心に、延べ44人の参加者がありました。

1回目は「女性と男性がともに生きるということ」をテーマに、パネルディスカッションを開催。古久保さくらさん(大阪市立大学准教授)がデータを使いながら「若者の生きづらさは社会全体の課題であること」を解説しました。古川圭子さん(毎日放送アナウンサー)、廣田学さん(とよなか市民環境会議アジェンダ21)がライフデザインを考えるヒント、豊中の魅力について語りました。後半は「まわしよみ新聞づくり」をしました。

2回目は「未来の参考書!わたしの一冊!」をテーマに、未来に役立つ本を紹介しあいました。『星の王子さま』『さあ海外で働く』をはじめ多彩な作品があがりました。後半は「若者と考える、若者のためのまちのあり方」をテーマに、桜井政成さん(立命館大学教授)の進行でワークショップを実施。自分ができることを「ギフト」としてあげ「若者が地域でできること」を考えました。「豊中駅を中心に外国人と日本人をつなげる場をつくる」などのアイデアがあがりました。



(特活) とよなか市民環境会議アジェンダ 21

大学生と共につくる環境講座

2014年度から、小学校低学年を対象に自然、世界、豊中を学ぶ「びったんこ隊」という連続の環境講座を実施しています。その講座では、大阪大学環境教育サークルGECS(ゲックス)に、子どもたちに寄り添い、学びや成長を促進するリーダーとして、協力してもらっています。最初は補助に近い形からの協力だった大学生も、今や1回2時間の講座を1から企画し運営してくれています。柔軟性があり、子どもの目線に立つことができる大学生たち。そんな大学生の企画や言葉には、私たちもたくさんの学びがあります。



若者は環境に興味がないという人たちもいますが、対等に話し合い、一緒につくる姿勢を大切にするすることで、若者たちの豊かな発想とエネルギーはちゃんと環境保全にも向けられます。「びったんこ隊」を通して、若い世代の無限の可能性を感じながら、楽しく伝える環境講座をつくっています。

とよなか市民公益活動協議体・らっぴ

らっぴ×若者

市民活動情報サロンのサテライト施設・コミュニティカフェ CoCoKara(蛭池東町)では、市民活動団体や市内施設、行政、市民の異種異業交流会として年に数回『豊中を考える若者の会～ココカラピアテラス～』を開催しています。

毎回テーマを決めて、スタッフお手製の料理を片手に、豊中のこれからや自分たちの活動について和気あいあいと語り合っています。

それぞれの活動の中で抱えている悩みや課題を共有したり、情報交換やネットワークづくりの場として、自称若者であれば、どなたでも参加することができます。開催日はFacebookなどでお知らせしています。



(公財)とよなか国際交流協会

若者とつくる若者のための活動の取組み

文化庁の【「生活者としての外国人」のための日本語教育事業】の委託を受けて始まった、若者支援事業は今年で3年目を迎え、現在5つの活動があります。

- ① みんなでごはんをつくって、食べて、話をする《若者のたまりば》
- ② 外国にルーツがある若者をゲスト(乗客)に迎え、架空の飛行機の中で今の思いを話してもらう《インターネットラジオ番組 とよなかエアライン》
- ③ 自分らしい働き方やライフスタイルを語り合う《おしごとカフェ》
- ④ アイデンティティや表現についてほどほどに考える《てーげー大学》
- ⑤ 様々な世代がダンスの練習を通して仲間づくりをする《多文化ダンス教室 わたパチ》

子どもでもなく大人でもない、外国にルーツをもつ若者の居場所づくりや表現・学びの場づくりを今日も試行錯誤しながら進めています。

ポスターセッション@エルおおさか(大阪府労働センター)
10月3日、文化庁日本語教育研究協議会《「生活者としての外国人」のための日本語教育テーマ別実践報告会》での様子。



市民活動情報サロン×若者

若い方にも市民活動を身近に感じてもらえるように、市民活動団体よりボランティア情報を提供していただき、高校生から参加できるボランティア活動を紹介しています。活動分野は教育や環境、国際関係などさまざまです。地元の豊中でボランティアデビューしてみませんか?

(公財)豊中市スポーツ振興事業団

若者への取組み

★競泳選手コース★

豊中市スポーツ振興事業団には、水泳の競技力向上を目標に活動している競泳チームがあります。その名も『Swim Team とよすぽ』です。

小学生から30代の社会人まで、42人の選手が在籍しています。マリノード豊中スイミングスタジアムと二ノ切温水プールでそれぞれの目標に向かって練習に励んでいます。



たくさんの大会にも出場していますので、応援よろしくお祈りします!!

★インターンシップ実習生★

8月から約1ヶ月半、追手門学院大学から2人の実習生に受け入れました。今年は、実践型インターンシップということで、職場体験が中心ではなく、学生自らが主体的に課題解決に向けて取り組むインターンシップを行いました。その課題とは、「とよピヨ体操を普及させる」こと。実際に、豊中まつりや水中運動会などのイベントでとよピヨ体操を披露したり、課題解決のための方策を提案としてまとめ、最終日には発表をしました。



(社福)豊中市社会福祉協議会

高校生東北支援ボランティアバス

～災害支援ボランティアを考える～

豊中市社会福祉協議会は市と共催で市内の高校に募集して、毎年夏に岩手県の大槌町、釜石市、陸前高田市にボランティアバスを運行しています。ボランティア活動で被災地を支援するとともに、現地の人々と交流し被災地を知ることにより、防災について考える機会となっています。

今年は8月19日から8月22日の四日間をかけて6校22名が参加しました。参加者は体験したことを高校などで伝えていかないと口々に感想をのべ、参加者の成長が感じられた四日間となりました。今後、震災の記憶を風化させず若い世代へつたえられ、支援の輪がもっと広がっていくことを願います。



釜石市の仮設住宅の方々との交流



大槌高校生との交流